

介護高齢者はちゃんと磨けているのでしょうか？

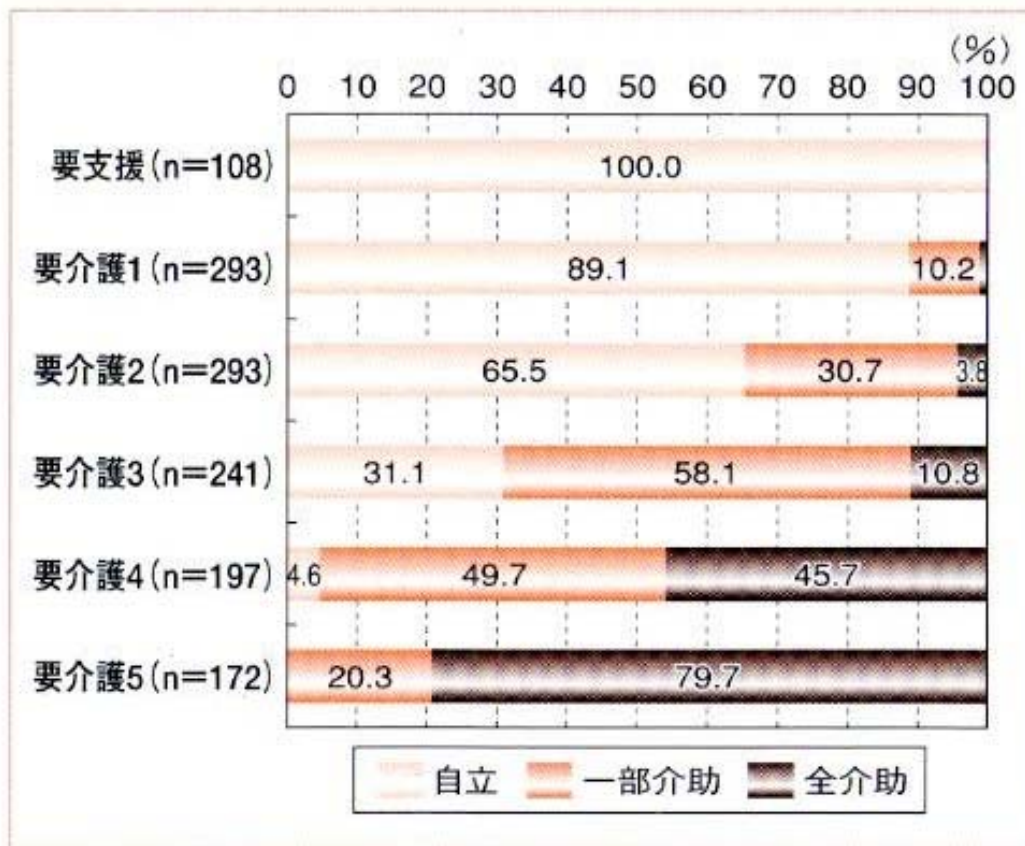


図1 介護度と口腔清掃の自立度（参考文献6より引用）。

介護度が上がると口腔清掃(歯磨きなど)が自分だけではできなくなります。要介護3で約70%、要介護4で約95%の人が、口腔清掃に対しても介助が必要とされています。

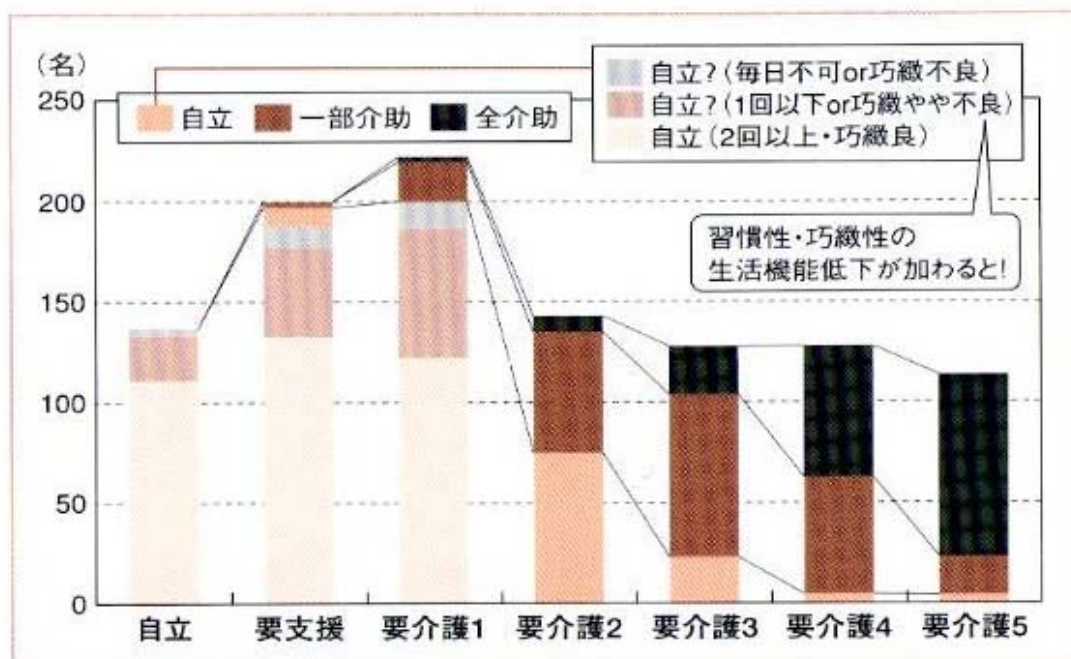


図2 口腔清掃が自立していても必ずしも良好に清掃できているとは限らない（某県認定審査資料より、認定者約1,700人）。

また、介護度が低く自分で口腔清掃(歯磨きなど)をしていても、お口の中を十分きれいにできていない方も多いようです。

そのため介護高齢者は自分で磨いていても、ちゃんと磨けていない可能性が高く、**定期的な口腔ケアが必要**な口腔環境にあると言えます。

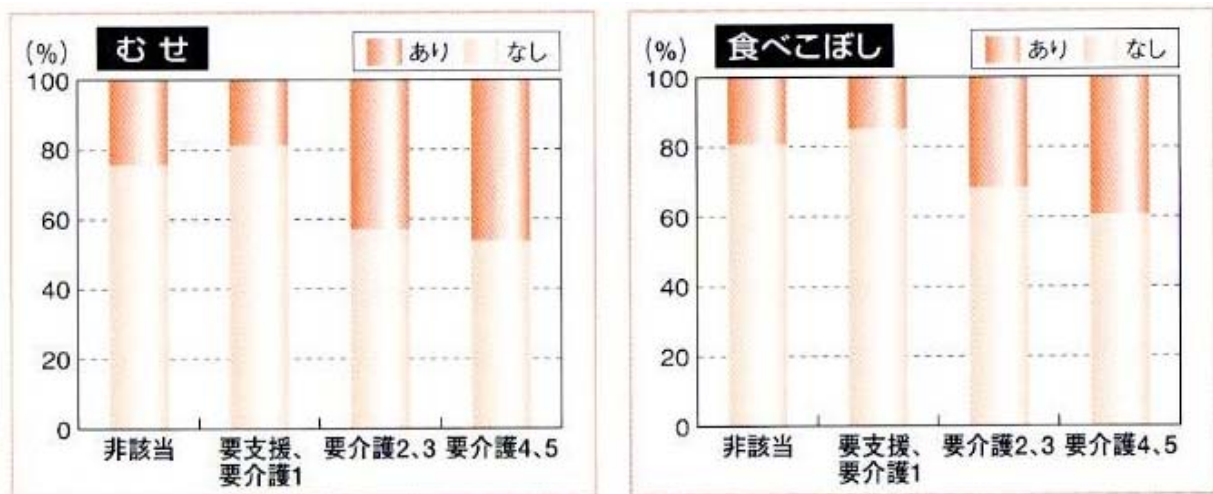


図4 介護度の悪化とともに「むせ」や「食べこぼし」を示す者の割合が増加する（参考文献7、8より引用）。

また、「むせ」や「食べこぼし」が増えてくると、**口腔機能が衰えて**きていることを表わしています。口腔機能が衰えてくると誤嚥性肺炎のリスクが高くなります。

そのため、**誤嚥性肺炎の予防**が大切になってきます。

参考文献：

『歯科衛生士のための介護予防』植田耕一郎監修.2006.クインテッセンス出版株式会社